

決議案 第 1 号
令和 5 年 1 2 月 2 0 日

長岡京市議会議長

白 石 多津子 様

発議者 小 原 明 大

石 井 啓 子

大 伴 壘

上 村 真 造

川 口 良 江

小 谷 宗太郎

進 藤 裕 之

住 田 初 恵

田 村 直 義

富 岡 浩 史

富 田 達 也

中小路 貴 司

中 村 歩

中 村 亮 太

二階堂 恵 子

広 垣 栄 治

福 島 和 人

干 場 志都恵

三 木 常 照

宮小路 康 文

八 木 浩

決議の提出について

ガザ地区における平和の早期実現を求める決議（案）を別紙のとおり提案します。

ガザ地区における平和の早期実現を求める決議 (案)

パレスチナ自治区ガザ地区を支配するイスラム組織ハマスとイスラエル軍との武力衝突が始まり、2か月以上が経過した。多くの住居や病院が破壊され、一般市民、特に子どもたちに甚大な犠牲が生じていることはあまりに悲惨で看過できない状況である。

こうした事態を受け、11月8日には先進7か国(G7)外相会合が、ガザ地区の人道危機に対処するため、戦闘休止を支持するなどとしたG7外相声明を発表した。また、国連安全保障理事会は11月15日に緊急会合を開き、ガザ地区の子どもの人道状況を改善するための戦闘の休止と人質の即時解放を求める決議を採択した。国連事務総長は12月6日、数十年ぶりに国連憲章第99条を行使し、人道的停戦の実現を安保理に求めた。国連総会は12月12日、人道目的の即時停戦を求める決議を採択した。

ガザ地区での人道危機改善に向けては本格的な停戦、事態の鎮静化が必要であり、イスラエルと自立可能なパレスチナ国家の双方が平和、安全及び相互の承認の下に共存することを想定した二国家解決が公正で永続的で安全な平和への道であることについては、国連やG7と認識を一にするものである。

長岡京市は「いのち輝く平和都市宣言」を行い、平和首長会議に加盟し、各国の核実験やロシアのウクライナ侵攻への抗議を行ってきた。

平和を希求する都市として、市民と共に、このたびの紛争に対して次に掲げるとおり一刻も早い事態の改善、解決を求める。

1. 人道目的の即時停戦及び人質の即時解放
2. 国際法、国際人道法の遵守
3. ガザ地区における人道危機を改善するための、水や食料、燃料、医薬品をはじめとする人道支援物資の供給
4. 戦闘地域の不拡大

以上決議する。

令和5年12月20日

京都府長岡京市議会

